

# インフルエンザ情報

感染対策

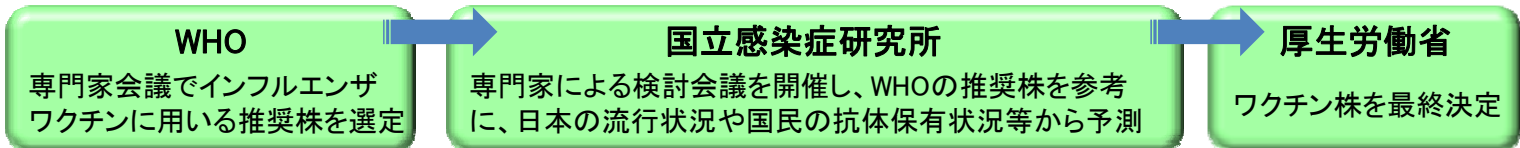
インフルエンザは、例年、11月上旬頃から散発的に発生し、1月下旬から2月にピークを迎えた後、急速な患者数の減少を経て、4月上旬頃までに終息します<sup>1)</sup>。インフルエンザウイルスの感染力は非常に強く、病院内で大流行が起こる危険性もあるため、外部から院内へのウイルス持ち込み阻止、ハイリスク患者および医療従事者への積極的なワクチン接種等、各施設の状態を踏まえて十分な対策を整えることが重要です。

## 医療施設におけるインフルエンザ対策

### 発生の予防<sup>1~5)</sup> 標準予防策とワクチン接種が基本



インフルエンザ発生の予防として、手指衛生、咳エチケット、個人防護具の着用など日々の標準予防策を確実に実施します。また、発症の可能性を減らす、発症しても重症化を防ぐといった観点から、ワクチン接種を行うことが重要です。ワクチン接種が望ましい人は、医療従事者、妊婦または妊娠の可能性のある女性、基礎疾患を有する者、65歳以上の高齢者です。特に、65歳以上の高齢者は毎年、国内におけるインフルエンザによる死亡者数の大多数を占めるため、注意が必要です。尚、日本国内で使用するワクチン株は毎年、以下の手順を経て選定されます。



### 発生時<sup>6~8)</sup> 標準予防策を遵守のうえ、以下の具体策(飛沫予防策)を追加 ※必要に応じて接触予防策を追加

#### 【患者配置】

- 可能な限り個室に入室させる
- ※個室収容が困難な場合は、同じインフルエンザウイルス型の複数患者を同室へ収容する(コホート)

#### 【個人防護具】

- 患者に接する際はサージカルマスクを着用する
- サージカルマスクは患者ケアエリア(個室等)に入る前に着用する
- ※手袋、ガウン、ゴーグル等の個人防護具を適宜着用する

#### 【患者移送】

- 病室外への移動は最小限にする
- 移送する場合、患者はサージカルマスクを着用する
- 移送に関わるスタッフおよび移送先に患者に関する情報(診断、直近の予防策等)を共有する

#### 参考資料

- 1) 岡部信彦他. 予防接種に関するQ&A集. 一般社団法人日本ワクチン産業協会. 2015年.
- 2) 厚生労働省健康局結核感染症課. 日本医師会感染症危機管理対策室. インフルエンザ施設内感染予防の手引き. 2013年11月改訂.
- 3) 厚生労働省. インフルエンザQ&A. <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/qa.html>.
- 4) 厚生労働省健康局長. 平成27年度インフルエンザHAワクチン製造株の決定について(通知). <http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10601000-Daijinkanboukouseikagakuka-Kouseikagakuka/0000087674.pdf>.
- 5) 日本環境感染学会 ワクチンに関するガイドライン改訂委員会. 医療関係者のためのワクチンガイドライン 第2版. 2014年9月発行.
- 6) 国公立大学附属病院感染対策協議会. 病院感染対策ガイドライン 改訂第2版. 2015年. pp.68-69.
- 7) CDC. Guideline for Isolation Precautions: Preventing Transmission for Infectious Agents in Healthcare Settings. 2007. [http://www.cdc.gov/hicpac/2007IP/2007ip\\_ExecSummary.html](http://www.cdc.gov/hicpac/2007IP/2007ip_ExecSummary.html).
- 8) CDC. Prevention Strategies for Seasonal Influenza in Healthcare Settings. <http://www.cdc.gov/flu/professionals/infectioncontrol/healthcaresettings.htm>.

2015年11月発行  
 サラヤ株式会社 学術部 (受付 平日9:00~18:00)  
 TEL:06-4706-3938 FAX:06-6209-0242  
 E-mail: gakujiutsu@saraya.com